



●回転混色の歴史と色彩教材への道

昨年6月の日本色彩学会全国大会でのワークショップ「色独楽で遊ぶ・回転混色の歴史と新たな色彩教育の可能性」の拡大版を、

2月4日に東京・日本橋にて開催いたします。

6月と同様、ドレスデン工科大学「色彩論コレクション」創設者エクハルト・ベンディンによる2010年の教材『色彩論のための回転盤』を最大お二人で1セットお使いいただきながら体験していただくと同時に、北島耀名誉顧問自作の回転装置を駆使して「主観色」の不思議に取り組んでいただきます。

加えて新たに、錯視研究・制作の第一人者の立命館大学・北岡明佳先生に、主観色現象のメカニズムと研究史を、詳細な資料をお配りして、詳しくお話しいただきます。

お土産は、永田泰弘名誉顧問作の回転盤図案データ200点超のダウンロードキーです。

開催は関東支部との共催、学会員の参加費は2,000円です。申込は1月30日(火)まで。対面参加数は30名、席数の都合上、申込と、支払いを共に完了された方が定員に達し次第締切り。オンライン参加は無制限。

お申込みの方は、日本色彩学会のホームページ、または学会メールニュースから、申込と入金をお願いします。(山根千明)

●私の色彩学事始め

教科書は、福田保著「色彩学」。色を数値で計測、比較出来る3原色によるXYZ系を授業で、実習は分光器による10nm毎の透過率にx,y,zの係数を掛けて足し算でX,Y値を求めました。90回の掛け算と各30個の足し算です。何をしているのかさっぱり判らないのが大方の気持ちでも、数値が出ればレポートになりました。シャープの卓上計算機やカシオの6桁ポケット電卓が出た頃です。コダックのカラーフィルターカタログの表紙の馬蹄形の色度座標図が新鮮だった頃です。

なぜ数値での表記が必要だったのかを考えるとカラーテレビに辿りつきます。色票をカメラで映しテレビの画面を計測して違いを数値にして比較でした。学生実験は手動の分光器で卓上型でしたが、卒論など多数の試料を扱う時は、日立の自動自記分光機を使い、記録紙のカーブから反射率を読み取ったのですが電子計算機が使えるようになり紙テープにプログラムとデーターを打ってコンパイルすると大型ドットプリンターに結果が印刷されました。まだモニターが無かった時代で、チェックはすべてプリントアウトを見ながらでした。(小川 梓)

●大辞泉ひろいよみ 52一き

挙白：きよはく。白は盃の意。杯をあげて酒を飲むこと。また、他人に酒をすすめること。

きらら：雲母のこと。きら。

金色：こがね色。こんじき。金は銅族元素の一。単体は黄金色で光沢がある。

銀色：銀のような輝きのある灰白色。しろがねいろ。銀は銅族元素の一。金と並び称される貴金属。

金液：陶磁器に使う金色の上絵の具。テルペンにロジウム・ニッケル・クロムなどの金属を加えた濃原液。水金。

金屋：黄金で飾った家。りっぱな家屋。金殿。

金花：黄金の飾り花。

銀河：天の川。地球上から見た時の銀河系。天漢。銀漢。

金塊：金のかたまり。金の地金。

銀塊：銀のかたまり。

銀灰色：ぎんかいしょく。銀色を帯びた灰色。シルバークレイ。

紫外線：きんがいせん。紫外線に同じ。

金革：きんかく。刀剣と甲冑。武器。武具。戦争。いくさ。

金革：きんがわ。地色を金色にした革。

銀革：ぎんがわ。地色を銀色にした革。

*大辞泉：小学館発行国語辞典 (永田泰弘)